



特別
子12
3643
194



中澤景民輯錄校出

亂舞道人稿滿
寫之

- 一 御即位ツシジ云ハ此系宸殿云御殿江皇子出御マシクテ天下ノ人々ニ知ラセ規式正シテ天子ノ御位ツシジ付タマフ云
- 一 踐祚センソ云ハ御世ツギ續タマフキ皇子内ニテ御位ツシジ付タマフ云
踐祚トハクラ井ヲフムト讀也即位トハクラ井ニツクト讀也
- 一 大嘗會ジヤウエ云ハ御即位由日本神江告タマフ御神事也
林示中ニテ行ル也大神事也
- 一 讓位ジヤウイ云ハ天子ノ御位ツシジ太子御嫡子ノ事也ニユヅリ給ラフ云也
- 一 受禪ジユゼン云ハ太子父帝ヨリ天子ノ御位ツシジユヅリ受タマフ云也
受禪ト書テユヅリラウクルト讀也



故
梅若誠太郎氏
昭和四年高岩
梅若重氏
寄贈

脱履ツクリ 御位ミタビ スベリ 給タマハ フラ云也

一 遜位ソンジ 云ハ天子御位ミタビ シリゾキ給タマハ フラ云也 遜位ソンジ 書テ位タビ

シリゾクト瀆也 讓位ヤウジ 事也

一 重祚チヨウソク 云ハ天子御位ミタビ スベリ給タマハ テ其後カサチ 又重テ天子ノ

御位ミタビ ツキ給タマハ フラ云也 常ニアル事ニアラズ 何カ故アリテ多く

重祚チヨウソク アル事也

一 天子御身キヨウシ 玉躰ギョウタイ 云御顔ミカノ 天顔テンガン トモ龍顔リウガン 云御心ミココロ

天機キ 云御苦勞ミクウ 宸襟シンキン 云オボシメシヲ 睿慮エイリョ 云感カン

オホジメスヲ 睿感エイカン 云御立腹ミタビ 逆鱗ゲキリン 云御勤當ミチカウ 勅

甚カト云物ヲ御覽ミタビ ナサルヲ 睿覽エイガン 云御病ミヤマ 御惱ミナウ 云御

御衣ミイ 袞コン 龍リウ 衣イ 何レモ織物オリモノ の 紋モノ からシ

崩御ホウゴ 登トウ 霞ウカ ト云 又 登遐トウカ 書

又 勅詔セウシウ 云又勅命トモ 云御盃ミサカ 天盃テンサイ 云御死ミシ 去サ 崩御ホウゴ 云

又 御忌中ミイミナカ 諒闇リヤウアン 云御壽命ミイノイダシ 寶筭ハウサン 云御位ミタビ 寶祚ハウソク 云

又 御出行ミイデ 幸トク 云仙洞センドウ 御出ミイデ 朝アサ 勤行キンギョウ 幸トク 云御還ミイヘ 還ヘリ

又 宸筆シンヒツ 云御座所ミイマス 玉座タママス 云御所ミイマス 禁中キンチュウ 禁裡キンリ

又 禁闕キンケツ 鳳闕ホウケツ 大内オホウチ 内裏ナイリ 云假カ ソメニ御座ミイマス ナサル所トコロ

又 皇居ミヤノイ 云御旅宿ミイタビ 行在アンサイ 所トコロ 云御輿ミイコ 鳳車ホウレン 云

又 御車ミイコ 聖駕セイカ 云御寢所ミイノイ 夜御殿ヨルノオトノミ 云御臺所ミイノイ

嵯峨天皇天位サカエ 登トウ 七シ 天同テンドウ 五年ゴネン 弘仁コウニ 改元カイゲン アル同ドウ 九月クニツキ 天皇テンノウ 先帝センテイ 太上トウジョウ 皇ミヤ 王城オウジョウ 鳳輦ホウベン 廻マヒ 是朝コノアサ 勤行キンギョウ 始ハジメ ナリ

又 掖庭エツテイ 禁中キンチュウ 云

臺盤所^{シイバン}ト云御膳所^{アサガレヒ}朝餉^{アサガレヒ}ト云御食物^{ゴク}供御^{ゴク}ト云女中
部屋^{シイノヤ}對屋^{タイノヤ}ト云御亭^{チン}鈎殿^{ツリドノ}ト云御番^{シヤウジツ}勤^{チン}ヲ宿直^{トノイ}ト云
當番日^{シヤウジツ}上日^{シヤウジツ}ト云御アソビ^{ゴイウ}御遊^{トモ}宸遊^{シンイウ}ト云御馬^{ゴウマ}
龍蹄^{リョウテイ}ト云物^{モノ}申上^{ソウ}ヲ奏聞^{ソウモン}奏達^{ソウダツ}ト云禁裏^{ヒンリ}裏^ヒ井ル事^ツ
參内^{サンナイ}ト云官位^{クワンイ}御禮^{ゴレイ}申上^{ソウ}ヲ拜賀^{ハイガ}ト云

院^ト申モ仙洞^{センドウ}申モ同^{ドウ}事^シ也天子御位^{テンシ}ラスベリ給^ヒテ
御隱居^{ゴイン}居^イナサレヌル申也女中^{ニウチュウ}ハ女院^{メノイン}申也天子御母^{テンシノオノ}也
何^{ナニ}門院^{カドノイン}ト云号^{ナヅケ}ヲ贈^{オウシ}給^ヒ也

一 東宮^{トウグウ}トモ皇太子^{クウタイシ}トモ申ハ天子御嫡子^{テンシノオノ}テ御家督^{ゴカドク}ヲツギ

潜龍^{センリョウ}
人君^{ヒトノミ}イニ給
位^イニツギ
ハ又時^{マタトキ}ヲ云

武者所^{ムシヤドコロ}
院^{イン}御所^{ゴシヨ}ニテ
下北面^{シモウラハ}武^ブキ
伺^{カウ}候^{コウ}スル所也

給^ヒベキ御^ゴ申也又坊^{ボウ}トモ申也春宮^{トウグウ}トモ申也

一 院^{イン}申ハ天子御位^{テンシノイ}ラカレ給^ヒヲ申也又ハ太上天皇^{タイカウ}太上帝^{タイカウ}上皇^{シヤウ}トモ

中奉^{ナカホウ}御所^{ゴシヨ}ハ院^{イン}御所^{ゴシヨ}仙洞^{センドウ}院^{イン}ト申御所中事^{ゴシヨノナカノコト}ハ院中^{インチュウ}

洞^{ドウ}中^{チュウ}ナド云院^{イン}御座^{ゴイザ}ナサレ時^{トキ}當^{タウ}今^{イマ}御位^{ゴイ}ラカレ給^ヒハ新院^{シンイン}ト

中奉^{ナカホウ}前^{マヘ}院^{イン}ハ本院^{ホンイン}ト奉^{ホウ}也院^{イン}系^{ケイ}ボ^ボ院^{イン}系^{ケイ}ボ^ボ院^{イン}御詞^{ゴシ}

兼^{ケン}テ文^{モン}書^{ショ}院^{イン}宣^{セン}ト云御使^{ゴシ}院使^{インシ}ト云御出^{ゴウデ}ヲ御幸^{ゴウキョウ}ト云

一 東宮^{トウグウ}春宮^{チュウグウ}トモ書^{カク}東宮御詞^{トウグウノゴシ}文^{モン}書^{ショ}令^{リウ}旨^シト云親王^{シンノウ}

后宮^{コウグウ}ナドノヲモ令^{リウ}旨^シト云御出^{ゴウデ}ヲ行^{ユク}啓^キト云物^{モノ}ヲ上^ウヲ啓^キスルト云

又啓達^{キヘダツ}トモ云御妻^{ゴメ}御息所^{ゴシヨ}ト云

御息所ハ
内ニ入ル
事也
春宮ニテハ
御妃ヲ申テ
女御ト申モ
同シ
古イハ能ク
ナリシ

一 女御ニウラゴト云ハ天子ノ御手カケ也後ニ中宮チウクウ后宮コウクウモナリ給フ也

御妻ミツメハ后宮ト云中宮后宮ヨリモ下也中宮ト云モ御妻也

桓武天皇御時ヨリ中宮后宮ト二宮ヲ並テ置ルト云

其以前ハ中宮ト云ハ后宮事ニテナリシ也

一 内親王ト云ハ天子ノ御娘ニ親王号御免アルヲ云

一 法親王ト云ハ天子ノ御子御出家ニナリ給ヒタル御方ニ

親王号ヲ御免アルヲ云也

一 入道親王ト云ハ只今迄親王ニテ御座候御方剃髮

シテ佛道ニ入給フヲ云也

一 無品親王ト云ハ親王御位ムホンハ一位二位トイダシテ一品ホン

二品ホンナドト云也品ハ位事也御位ハ無之無位ニシテ

親王ト云号バカリ御免アルヲ無品親王ト云也

一 皇嘉門院安嘉門院建禮門院ナドト云ハ天子

御位ニツキ給ヒテ御母タマヲトミテ門院ト号ヲ奉ル也

御母御隱居一町ヲ女院ト申也又トハ禁裏建禮

門ト云御門近邊ニ女院ノ御所ヲ立ルハ建禮門

院ト云也此外モ推テ知ベシ

一 節會セチエト云ハ天子出御アリテ御前ニテ御餐應キヤウオウヲ下サレ御酒宴

アルヲ云也元日節會白馬節會ナド、サシクアリ

一行幸御幸事天子御出ヲ行幸ト云院ノ御出ヲ

御幸ト云院ノ天子御隱居也行幸モ御幸モスベテコトキト云也

將軍御出ヲ御成ト云御成ト書ハ室町殿比ヨリ事也

鎌倉將軍比ハ御行ト書タリ東鑑卷十一建久二年辛亥八月六日壬午

御移徙之後有御行始之儀云し御行ヲ御ナリト云ナリ

御行二字ニテ御アリキ也アリキノ字ヲ略シテアリト云也御ナリト云

詞ニ付テ御成ト字ニ書替タル也

一官職事官ト云モ職ト云モ林示中ニテ勤ル役義事也官モ

成リシ事ト云モ事ナドモ永ク官ト云ハ官舎アルヲ官ト云

ハ役屋鋪事也役

任官
任叙

官よのぢらをも任ズといひ

ある節用集ホニ出

位よのぢらをも叙スといふ

勤ル職ト云也

官位共ニすむをも任叙といふ也

伊勢守ニ任スルナド、云

官位共ニ
スルヲ
任叙ト云也

類也位ヲ被仰付叙スルト云正三位叙スルナド、云類也

一位ト云ハ林示中ニテ列座スル時座ナシ高下ヲ立ル為ノ法也

一位ハ一番メニ座シ二位ハ二番メニ座シ三位ハ三番メニ座スル為ニ

定ラレタル事也位階ト云モ位事也

アルヲ云也元日節會白馬節會ナド、サシクアリ

一行幸御幸事天子御出ヲ行幸ト云院ノ御出ヲ

御幸ト云院ノ天子ノ御隱居也行幸モ御幸モスベテニユキト云也

將軍御出ヲ御成ト云御成ト書ハ室町殿比ヨリ事也

鎌倉將軍比ハ御行ト書タリ東鑑卷十一建久二年辛亥八月六日壬午

御移徙之後有御行始之儀云し御行ヲ御ナリト云ナリ

御行ノ二字ニテ御アリキ也アリキノ字ヲ略シテアリト云也御ナリト云

詞ニ付テ御成ト字ニ書替タル也

一官職事官ト云モ職ト云モ林中ニテ勤ル役義事也官モ

職モ同様ナル事ナドモ委ツク官ト云ハ官舎シヤアルヲ官ト云

舎シヤナキ職ト云官舎ハ今武家ニテ云役屋鋪事也役

屋鋪カマヘテ勤ル官ト云役屋鋪ナクテ勤ル職ト云也

一官被仰付任ニズルト云兵庫頭ニ任ズル伊勢守ニ任ズルナド、云

類也位ラ被仰付叙スルト云正三位叙スルナド、云類也

一位ト云ハ林中ニテ列座スル時座ナシ高下ラ立ル為シ法也

一位ハ一番メニ座シ二位ハ二番メニ座シ三位ハ三番メニ座スル為ニ

定メラレタル事也位階ト云モ位事也

官位共ニ
スムヲ
任叙ト云也

Handwritten notes on a small slip of paper at the top of the page.

一 叙留^{ジヨリウ}云ハ官位アル人一段上位ニ登^トテ官ハ元ノ如^シナルヲ云

位バガリス、ミテ官ハ不^レ登也

一 贈^{ゾウ}位贈官ト云ハ死ヌル人ニ位^ヲ被^ル仰付^ニ云也

一 一品^{ホシ}二品^{ホシ}ト云ハ親王御位也一位二位ト云ニ同事ナレドモ親王御

位^ヲ品^ト云臣下位^ヲ位^ト云親王ト天子御二男三男又ハ

御兄弟親王ト云号ヲ御免アル也是ヲ親王宣下ト云

一 上卿^{シヤウケイ}ト云ハ大臣大中納言内何^ニテモ林示中公事^シ奉行^シ勤

人^ヲ上卿^ト云也 公事トハ除目叙位
政事ヲ行ハルヲ云

一 内辨^{ナイベン}外辨^{ゲイベン}ト云ハ林示中公事^ヲ行^ル日奉行^ル内弁^ト云上

卿^{ケイ}事也外弁ハ内弁^{ツギ}次^ニテ内弁^テ手傳^テスル役也

一 攝政^{セツシヤウ}關白^{カンパク}ト云ハ二名也攝政^トハ天子御幼少^ト歟又ハ女帝^ニテ

御座^シ候時ハ大臣タル人御ウシロ^ニシテ天下政事^ヲ取行^ル人^ヲ

云也御幼少天子十五御年迄御ウシロ^ニシテ勤^テ十六御年^{ヨリ}

御ウシロ^シ役^ヲ止^メテ天子御自身^ニ政事^ヲ取行^ヒ冬^ニス^シト申上

ル時猶又御ウシロ^シ事御免^{ナシ}政事^ヲアツケ給^フ關白^ト

申也天子御年十五迄ハ攝政^ト云御年十六ヨリ關白^ト云

勤^メ方^ハ同事^也 關白ニ字^ヲアツカリマウスト讀也
天下政事^ヲアツカリ給^フ心也

一 准后^{ジュンゴウ}ト云モ准三宮^ト云モ同事^也天子御祖母^ヲ大皇太

殿^{デン}下^カト云ハ
關白^{カンパク}殿^{デン}ト云也

后宮ミコノミヤト云同御母ミコノハハ皇太后宮ミコノハハノミヤト云同御妻ミコノハハノミヤ皇后宮ミコノハハノミヤト云是ヲ合ヒテ三宮ミヤト云也大臣ナド人後ノチ天子ミコノメシヨリテ右三宮ミヤニ准シゼラル事コトアリ三宮ミヤニ准ズルト申セトモ位イヲ准スル事コトニハアラス右三宮ミヤ取メル禄ロクニ准セラル也三宮ミヤ取メル程ハノ禄ロクヲ給ル也

一 公卿クニギノミヤト云ハ攝政セツセイ関白セツハク太政大臣タウセイダイシ左大臣サダイシ右大臣ミナモト内大臣ウチダイシハ公ナリ大納言ダイナゴン中納言ナカナゴン散サン一位イチイ并ナド三位以上サンイニノ人ヒトハ卿也キョウニシ參議サンギハ宰相四位シイニテモ卿キョウト云也又大臣ナド公卿クニギノミヤト云時トキハ公卿クニギノミヤハ大納言ダイナゴン參議サンギ散サン一位イチイ并ナド三位以上サンイニノ事コト又卿キョウ相サウトモ云也又散サン一位イチイ并ナド三位以上サンイニノ事コト位イガリ一位イチイニテアル人ヒトト云

月卿ツキノキョウトモ殿上人テンシヤウビト云ウニカク雲客ウンカクト云

一 殿上テンシヤウト云ハ四位五位六位以下シヨウデンノ昇殿ノボリハナラ又事コトナレトモ昇殿ノボリヲ

ユルサレテ昇殿ノボリスル人ヒトハ殿上人テンシヤウト云也

一 堂上ドウシヤウト云ハ昇殿ノボリユルサレル人ヒトト云地下ヂゲト云ハ昇殿ノボリユルサレル人ヒトト云

一 堂上ドウシヤウハスミテ讀ヨミベシ地下ヂゲハニゴリテ讀ヨミ也

一 遷任センニントモ轉任テンニントモ云ハ別ノ官カミナル事也役替ヤクカトモ也

一 隨身シヤウジント云ハ左近衛ササキ右近衛ミナモト官カミ下役シヤウガウニ將曹シヤウサウ府生フシヤウ番長バンチヤウ

近衛ササキナドト云役人ヤクヒトアリ此役人コノヤクヒト何ナニモ弓ユミヲモチ胡ヤナグヒ竹タケ祿ロク負ヲ太

刀カハキ大將ダイシャウ中將チュウシャウ少將ショウシャウ付ツキシメガフヲ隨身シヤウジント云

シラシラケ
僧ソウ御家ミカト
堂上ドウシヤウヲ云
公家クウカ衆シュウ
事也

星位ホシイトハ
百官ヒャクカンヲ云

或書

六衛府

左右近衛

左右衛門

左右兵衛

私云

是ヲ衛府

官人ト云歟

在原業平ハ

右近衛中將也

一 將軍宣下ト云ハ征夷大將軍ノ官ヲ被ニ仰付事也

一 文官武官ト云事 禁裏内外ノ守護スベテ武道ニカリ

スル役 武官ト云 左近衛 右近衛 左衛門 右衛門 左兵衛

右兵衛 左馬 右馬 兵庫ナドノ類皆武官也 大臣ヲハジメ

武官ニテ無キハ何モ文官也

一 何ノ官ニテモ四分トテ一役ニ役人四人ツヅカル也 四分ト云ハ

カミ、スケ、シヤウ、サニン、是也 カミハ大頭也 スケハ小頭也

カニ、ヌスケ、ラスル也 シヤウハ一役ノ内ニテ世話ヤキニテシマリ

役也 一役中ノ取シマリラスル也 サニンハ筆者ニテ役ニ付タル



禁中ニテハ

瀧口ト云 藏人所

春宮ニテハ

院ニテハ

北面ト云

何レモ同シ

武士也

シキキトナリ

第ノ合入ト

云テ宿直シ

種々事ニモ

仕ハル武士

也

士会ヲ打聞見ナリ

ハ

諸書付書留等ヲスル也 カミト云字ハ 卿頭 大夫 正

長官 督守ト書スケト云字ハ 輔助 亮 佑次 官 介

佐、シヤウト云字ハ 丞 允 尉 掾 進 判官、サニント云字ハ

録 属 令史 主典 目志、ナド、書也 官ニヨリテ文字

カハル也 職原抄 百寮訓要抄

一 太夫ト云ハ官ハ無テ四位五位ノ位バカリ受ラ云也 依テ

太夫トハ四位五位ノ惣名也 平ノ敦盛ハ官ハ無シテ位バカリ五位ナリシ

無官太夫ト云 故ニ世俗是ヲ無官太夫ト云リ サレドモ

一 太夫ト云テ云トニゴリテ云トニ差別アリ 皇太后宮太夫

清 濁

左京大夫修理大夫大膳大夫ナドノ時ハタイブト濁テ云也
タイフト清テ云時ハ五位ノ事也

一 惣テ五位人ヲ諸大夫ト云也 諸大夫ト云時ハタイブト濁テ云也

一 何大夫ト云名モ五位ナリル人名也 源氏ノ人五位ニ

成タルハ源大夫平氏ノ人ハ平大夫ナドノ云ガ如シ 依テ平人ハ遠慮シテ付マシキ事ヤ

一 文位勲位ト云事アリ文位トハ常ノ正一位從一位以下位

事也勲位トハ勲ハ勲切トテ軍ニテ高名テガラシタル云其

勲切アリシ人ハ褒美ニ勲位ト云位ヲ被仰付也勲位ハ勲

一等勲二等ナドノテ勲十二等迄アル也トハ勲一等ノ人ハ

正三位下從三位上ニ着座スル也勲二等ノ人ハ從三位下

正四位上ノ人上ニ着座スル也 此次ハ委細ニ令義解ト云ニアリ見テ知ベシ

攝家ト云ハ攝政関白ナル家也華族トモ云太政大臣ナル

家也大臣家ト云ハ大臣ナル家也サレドモ大將ヲ兼事ハ

ナラズ羽林家ト云ハ初少將中將ナリテ參議中納言大

納言ナル家也名家ト云ハ儒學家ニテ辨官藏人頭ニ

至ル家也諸大夫ト云ハ輕家ニテ四位五位ヲ極位トスル家也

器 器量ヨリテ中納言大納言迄ニ至ナルトモ本地下家筋也

一 武家ヲ清華ニ准スル事南朝記傳ニ云應永五年戊寅

五攝家ト云ハ
近衛 九條
二條 一條
鷹司
七清 幸ト云ハ
花山院 西園寺
大炊御門 久我
轉法輪 德李
菊亭
今出家ト云ハ

今年相國シヤウコク義滿ムツ武家三職七頭定ム是朝廷五攝家
七清華ニナゾラハスル也三職ハ斯波細川畠山三管領タリ
七頭ハ山名一色土岐赤松京極上杉伊勢也云
一 斯波シバ武衛細川足利尾張畠山仁木荒川吉良東條
今川澁川石堂一色小侯コウ山名里見岩松桃井
新田大館堀口得川トシカハ世良田セラタ等ノ家ハ皆京都
將軍家御一門ノ家筋也

一 大御所ト云号ハ將軍家ノ御隱居ヲ申也大御所号ハ
仙洞御所ニ天子ノ御天ノ御隱居也准ズル号也ト申傳此号ハ尊氏公ヨリ

三代目義滿公ヨリ始リ由今川了俊伊勢守ノ書レタル難太平

記ニ見ユ

一 滴賣シヅメスル者官位ヲ申受事イミシヘ古ハ無キ事ナリニ室所將軍
義輝公滅亡シ給ヒ後誰アツテ林示重アラガメ方ヲアガメ心ヲヨスル者モ
ナク亂世ニテ朝夕御膳モ糸スベキ便モナカリシ時節トメ富ル
商人共米錢ナド奉リシ蓑衣トシテ官位ヲサツケ給ヒシヨリ
始リケル也其後信長公代ニナリテ公家モユタカニ成シトゾ

其衣キキウ
繼ツトハ
家業ウチノカ
ツト云事ツト云事
也

淳和辨學兩院之事 前々太平記卷之十三アリ性見

辨ハ進也修也
因テ音修

一 淳和院ジユンワ辨學サウガク院別當之事此二院源氏學文所

名也源氏長者スル人其學文所支配スル別當ト云

將軍家ハ源氏長者スルヨリ淳和辨學兩院別當ナリ

給フ也

又學館院ガクイント云橘氏キツシ學文所也後世堂上衆橘氏絶テ

無依之橘氏長者ナシ後世九條殿學館院別當ニ成

給也梅宮ウメミヤ社家共橘氏ナレバ九條殿ニ付テ官位願ヲ

多ク申也九條殿ハ藤原氏ナレドモオクカラ橘氏ハ長者如ク

成タル也

永好カ年中街モ
梅宮ハ橘
諸兄公ヲ祀ヒ
冬ホレリ云リ

一 ヲサナ名ニ牛若丸ウシワカウラ犬房丸イヌボウウラナド云丸ハ本モトハ麻呂マロ字也麻

呂ノ二字ヲ一ツニシタル也マロトハ男ノ事也依之男子ノ名ニ

マロト云也上古ハヲサナ名ニ限ラス成長ノ人ニモ麻呂ノ字

付タリ人麻呂ノ類也

一 アル書ニ云丸（二）トイヘルハ貴人ノ謙稱（ケンシヨウ）ニテ不才（フサイ）トイヘルガ如シオヲカドト訓（クン）ニ對シテ丸（二）トイヘル也又往古問丸（二）ト云事今ノ問屋ニテ丸ハ屋也（アル書ニ見エタリ） 船（フネ）何丸ト云事ハ今ノ何屋ト云事也

一 悴（セガレ）ト云事我子ノ事ヲ他（ヒト）ニ對シテ卑下（ヒゲ）シテ愚息（ト）ト云也古ノ詞也愚息ト書テオロカナルムスコト讀也今ハセガレト云也 悴ノ字ヲ用（ユ）也 悴本字ハ悴（スイ）ノ字也 憔悴（セウスイ）トツク字ニテカジケルト云字也セガレト云詞モセバマリカレクニナル心ニテ我子ヤセオトロカジケタル心ナルベシ 雜役（ザフヤク）ノ人夫ヲ悴者（カセモノ）ト

云モ同シ心ナリ

一 大ノ字（ヲ）ハナハトモアナトモ訓ズ 宍賢（ニクケン）ト云モ大賢也 宍ハ假字也 神武記ニ大（ヲ）アナト訓ゼシ也

一 小袖（コタマ）ト云事上古ハ装束ノ下ニ着スル衣服（ウヂキ）ヲバ 袂（ウヂキ）トテ袖（タマ）ヲ大ニシテ廣袖ニシテ着シタル也 其袖（ウヂキ）大ナルニ對シテ常ノ衣服（ウヂキ）ヲバ小袖ト云也 カタビラ單物（ウヂキ）袷（ウヂキ）ニテモ袖（タマ）小サクシテ袖下（タマ）ヲ丸クシタルハ皆小袖也 綿入（ワタ）タル計（ハカリ）ヲ小袖ト云ハ

アマミリ也 貞丈雜記

一 練緯（ネリ）ト云ハ絹（キヌ）ノ名ナリ 絹（キヌ）ノタテ糸（イト）ヲ生糸（ナマイト）ニシテ又キヲバ子リ

糸ニテ織タル物故子リヌキト云也文字ハ練子リヌキ緯ト書ベキヲ
昔ヨリ練母貫トモ書来レリ昔ハ文字ノ吟味モナク書用カキタル
事多シ此子リヌキニシヅラ子リヌキノシメテ子リヌキトテ二ノ品アリ
シラ練母貫ヲバ人テハシヅラノシメト云ヒシメ練母貫ヲバ人テハ
ノシメト計云也本ハシヅラヲノシメル故ニノシメト云タルヲ人テ
シヅラノシメト云ハトナハ謬也シヅラ練母貫ハ昔ハ男モ女モ
着タル物也ノシメ練母貫ハ女ノ着物ニアラス貞丈云人テハ
將軍家ヨリノ御定ニテ侍從以上ハシヅラヲ用ヒ夫ヨリ
以下ハノシメヲ用ル事也カヤウノ事ハ其時代ニシ御定

ニヨル事ナレハ是非ハ申難シ

一 今イマテ世腰カハリ腰アキナド杯トテノシメノ腰ニ計竹筋ヲ付ルハ
古ノ織筋ヲ腰ニ計織タル也古ハ腰替腰アキ杯ト
云事ハナシ惣体ニ竹筋ヲ織シ也今テ世婚禮ノ時
腰カハリ腰アキ杯ト云名ノ輿カハリ輿アキト云ニ似タルヲ
忌イミテ無地ノシメト云物ヲ着ス其無地ノシメト云物ハ
竹筋ヲ織ヌ練絹也昔ハ腰替腰アキ無地ノシメト云
事曾テ無カリシ也末ノ世至リカヤウノ事ハヤリ出テ
法式ノ如ク成タル也

一 今世ノ夜具ノ内ニ蒲團フットント云物アリ古ハシト子ト云レ也
蒲團ト云ハ圓座ノ事也シト子ノ事ヲ蒲團ト云ハ
謬也夜ノシト子ヲハ公家ニテハ夜ノオマシトモ又
御スベリトモ申サル、由也

一 乳ノ粉ト云物ヲ製シテ坊間ニ粥ヒサモノアリ世上ノ乳ニ乏シキ
嬰兒ヲ救フ事其功最多シ然レ共坊間ニアル物或其製衣
麁ナルモノアリ予ノ最上氏ヨリ聞タル製法精且スグレタリト云
ベシ餅米ノ寒、晒カシヲ水ニテトキユルメヒメ糊コノ如クスベシ茶碗ニ一
ハイ程ヲ一日ノ食料ニ充アツ水飴一匙サジばかり右ノ寒、晒ノ中へ
入ナリカ、レバ飴ニテ米粉融ユウ化シテコトサラユルクナル也世上
ニテハ砂糖ヲ用ユトモヨロシカラズ燒鹽白牛酪ハクキウラクコノ二味ヲ桐子トウシ
ノ大サ程入ベシ世上ニテハ此二味ヲ入サル也鹽ハ腹中へ入テ云月ヤシナル
事其功アリ白牛酪ハ較皮ニテオロシ末コナトナシテ入ル也サテ

飲^セヤウハ常ノゴトクニテヨロシケレドモヨクク飲^セ試^ミテ嬰兒
ノ飲^ミヨキヤウニスベシ

一 食^{シヨラ}セズシテ飢^{ウエ}ザル法

串^{クシ}柄^{カキ}ヲ糊^{ウリ}ノ如^シニシテ蕎^{ソウ}麥^{マク}粉^コヲ等^{トウ}分^{ブン}ニ交^{マゼ}大^{ダイ}梅^{バイ}程^{テイ}ノ
大^サニ丸^マジ朝^{アサ}出^デル時^{トキ}二^ニ三^{サン}丸^マヲ用^{ヨウ}ナバ一日^{イツニチ}ノ食^シ事^{コト}ニナレリ
モシ蕎^{ソウ}麥^{マク}粉^コナキ時^{トキ}ハ餅^{ホウ}米^{メイ}ノ粉^コニテモヨロシ又^{マタ}三色^{サンシキ}合^カ
テモ用^{ヨウ}ベシト安^{ヤス}齋^{サイ}漫^{マン}筆^{ヒツ}ニアリ

又^{マタ}黑^{クワク}大豆^{ダイズ}五^ゴ合^カ胡^コ麻^マ三^{サン}合^カ水^{スイ}ニ一^{イチ}夜^ヤ浸^{ヒメ}シ蒸^{ムス}一^{イツ}三^{サン}度^{タク}

又^{マタ}一^{イツ}書^{ショ}ニ食^シセバ共^{キョウ}

飢^{ウエ}ザル法

胡^コ麻^マを升^{シヨウ}

唐^{テイ}末^{マク}粉^コを升^{シヨウ}

皮^ヒ核^{カク}をさる

寒^{サムイ}ごじらし

餅^{ホウ}米^{メイ}を升^{シヨウ}

右^{ミドリ}粉^コ下^ゲ一^{イツ}盞^{サン}を

○ 是^{コト}は

丸^マト一日^{イツニチ}に三^{サン}粒^{リツ}

ヅ用^{ヨウ}也^ヤ

サテヨク干^{ホシ}テ二^ニ色^{シキ}共^{キョウ}ニ手^テニテ皮^ヒヲ取^リ春^{ツキ}クダキ拳^{コブシ}ノ
大^ササ程^{テイ}ニツク子^コ 甑^{コシキ}中^{ナカ}へ入^テ成^ノ時^{トキ}ヨリ子^コノ時^{トキ}ニテ
蒸^{ムス}テアクル日^ヒ寅^ヒノ時^{トキ}ニ取^リ出^シ日^ヒニ干^{ホシ}付^テ食^シ良^キベシ
拳^{コブシ}程^{テイ}ナルヲ一^{イツ}食^シバ七^{シチ}日^{ニチ}飢^{ウエ}ズ二^ニ食^シバ四^シ九^ク日^{ニチ}飢^{ウエ}ズ
三^{サン}食^シバ二^ニ百^{ヒャク}日^{ニチ}飢^{ウエ}ズ四^シ食^シバ二^ニ千^{セン}四^シ百^{ヒャク}日^{ニチ}飢^{ウエ}ズシテ
顔^{カオ}色^{シキ}オトロ口^コへズ手^テ足^{ソク}ノ働^{カキ}少^シモ常^{ジョウ}ニ変^{カハ}ル事^{コト}ナシト
王^{オウ}氏^シ農^{ノウ}書^{ショ}アリ此^{コノ}類^{ルイ}數^{スウ}アリトイヘドモ畧^{リョク}ス唐^{テイ}土^ドニテ飢^{ウエ}饑^キノ時^{トキ}ニ
多^タク人^{ヒト}ヲ濟^メタル名^ナ方^{ホウ}ナリト云^フリ此^{コノ}外^{ガイ}唾^{ツバ}ヲ吞^{ノム}テ効^{カウ}驗^{ゲン}アリ
唾^{ツバ}ハ吐^{ハク}ベカラズ遠^{エン}唾^ダ高^{カウ}枕^{チン}壽^{スウ}ヲ損^{ソン}ト醫^イ心^{シン}方^{ホウ}ニ見^ミユリ

一 犬ニ嚙傷ラレタルニハ黑砂糖ヲ付ルニ忽愈ルイユ 蝮蛇ニ

傷レテ腫痛ムニ乾板ヲ嚼碎テソノ屑ニヌレバ毒氣

忽消散シテ愈ル事妙也 鼯鼠ハ小鼠也是ヲ甘口

鼠ト云和名抄ニ阿未 人ヲ食牛馬ヲ食ニ盡ルニ至レドモ痛

ズ此鼠モシ人ニツケバ毎夜ニ其毛髮手足ヲ食フ

是ヲ禦事百計スレドモ切ナキ時大ナル糸瓜ヲ取テ

其人ノ卧タル四方ヲ引続ラシテ是ヲ枕方ニ置バ其鼠

亦来ル事ナシ平相國清盛ノ馬ノ尾ニ鼠巢ヲツクリシト

景氏曰口鼠ハラ、サキナルシ博物志ニモ見エタリ
我等馬ニ付タル見タル事アリ

○ 是々以下満々見聞を記しよ也

アノ節用集ニ出タル寫者也

二十二社ハ
朝廷ニ於テ
別シテ重シ
セラル所也

社号ヨリ
官号ハ重シ
伊勢大神宮
八幡宮
梅宮等也

永好三年中行夏ニシ
祈年穀奉幣
長曆三年に
定め給ふ也

伊勢石清水ヲ
本朝ノ宗廟トス

伊勢外宮ハ豊受大神也

本朝
二十二社
伊勢
平野
大和
梅宮
丹生

[Faded handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

梅宮ハ橘諸兄公ライハル社也
同宮永好云ク

一 犬ニ嚙傷ラレタルニ黒砂糖ヲ付ルニ忽愈ルイユ 蝮蛇ニフクシマ
 傷レテ腫痛ムニ乾板ヲ嚼碎テソノ瘡ニ又レバ毒々氣カヘル
 忽消散シテ愈ル事妙也 鼯鼠ハ小鼠也是ヲ甘口アモンチ
 鼠ト云 和名抄ニ阿未 人ヲ食牛馬ヲ食ニ盡ルニ至レドモ痛チヌミ
 ズ此鼠モシ人ニツケバ毎夜ニ其毛髮手足ヲ食フモウハツ シユソク
 是ヲ禦事百計スレドモ切ナキ時大ナル糸瓜ヲ取テヘチニ
 其人ノ卧タル四方ヲ引続ラシテ是ヲ枕方ニ置バ其鼠マシラベ
 亦来ル事ナシ 平相國清盛ノ馬ノ尾ニ鼠巢ヲツクリシト
 イフモノ是也 景氏曰口鼠ハラ、サキナルシ博物志ニモ見エタリ
 我等馬ニ付タルヲ見タル事アリ

○ 是より以下満より見聞を記しる也

二十二社ハ
 朝廷ニ於テ
 別シテ重シ
 セラル所也

社号ヨリ
 官号ハ重シ
 伊勢大神宮
 八幡宮
 梅宮等也

永好三年中行夏ニシ
 祈年穀奉幣
キネンコクホフヘイ
 長曆三年に
 定め給ふ也

二月七月兩度吉日をえりて行ハる年穀を祈たまらんるの祈奉幣也
アル節用集ニ出タルヲ同者也

長曆三年に
 定め給ふ也
 祈年穀奉幣
キネンコクホフヘイ
 二月

- | | | | | | |
|-----|----|----|----|-----|----|
| 本朝 | 伊勢 | 平野 | 大和 | 梅宮 | 丹生 |
| 石清水 | 稻荷 | 廣瀬 | 吉田 | 貴布祿 | |
| 賀茂 | 大原 | 龍田 | 廣願 | 祇園 | 北野 |
| 春日 | 三輪 | 住吉 | 日吉 | | |
| 松尾 | 石上 | | | | |

長曆三年に
 定め給ふ也
 伊勢
 外宮ハ
 豊受大神也
 伊勢
 石清水ヲ

伊勢石清水ヲ
 本朝ノ宗廟トス

伊勢外宮ハ豊受大神也

梅宮ハ攝諸兄公ヲイハル社也
 同宮永好ニク

砂糖ヲ付レバ忽イユ愈ルフク腹蛇ニ
 嚙カミ碎クズテソノ瘡キズニ又レバ毒カヘル氣ハヒ
 也ケイソ巖イソ鼠ソ小鼠也是ヲ甘口アマシキ
 牛馬ウマヲ食クマフニ盡ルニ至レドモ痛ツク
 母夜ニ其毛髮モウハツ手足シユソクヲ食クラフ
 七切シチナキ時大ナル糸瓜ヘチマヲ取テ
 枕マクラ方ニ置バ其鼠
 鼠ノ尾ニ鼠巢スヲツクリシト
 鼠ハヲサキナルシ博物志ニモ見エタリ
 タルヲ見タル事アリ

見聞を記しよる也

アル節用集ニ出タルヲ寫者也

とるびて行ハる年穀を祈たまひるの御奉幣也
 石城 賀茂山城上 春日大和 松尾山城
 大原野山城 三輪大和 石上大和
 龍田大和 住吉摂津 日吉近江
 廣野摂津 祇園山城 北野山城
 祇園山城 北野山城

梅宮八橋諸元公ライハル社也
 間宮永好云フ

新年穀奉幣 二月七月 兩度吉日をさびて行ハる年穀を祈たまひるの御奉幣也

二十二社

長曆三年に
 定めたる心
 伊勢 石清水山城 賀茂山城上 春日大和 松尾山城
 平野山城 稻荷山城 大原野山城 三輪大和 石上大和
 大和倭 廣瀬大和 龍田大和 住吉摂津 日吉近江
 梅宮山城 吉田山城 廣瀬摂津 祇園山城 北野山城
 丹生大和 貴布祢山城

伊勢 石清水山城 本朝ノ宗廟トス
 古節用集ニ出タルヲ寫

人皇三十七代敏達天皇 諱ハ淳仲倉大珠敷天皇 此御宇未嘗有年号 年号ハ三十七代孝德天皇ニ始リ 大化ト云

前前太平記卷之二

天平寶字ハ

四十六代孝錄

天皇之年号也

テシヒマウハウジ

天平寶字元年正月左大臣正一位橘諸兄卿薨死ス

春秋七十四歳

帝孝錄甚愛悼シ五ヒ紀餘麻呂石川

豊人等ヲ遣サレ葬事ヲ監護セラレケル此卿ハ敏達天皇

六世孫美奴王子ナリ和歌ヲ好シ國字ニ通ジ嘗テ勅ヲ

永代節用無盡藏ニ云フ

四十五代

聖武天皇天平八年丙子葛城王橘姓ヲ賜ヒ

名ヲ諸兄ト改ム

四十六代孝錄天皇天平寶字元年正月

弟兄卿初ハ 帝聖武御前ニ

橘姓

聖武天皇

賜姓所也

天平八年

事也

御前御宇ニ橘姓ノ人ハ皆橘姓トシテ之ヲ

此御前御宇ニ橘姓ノ人ハ皆橘姓トシテ之ヲ

貞觀元年

弟二

御前御宇ニ橘姓ノ人ハ皆橘姓トシテ之ヲ

人皇三十代敏達天皇 諱ハ淳仲倉太珠敷天皇

此御宇未_レ有_レ年号

年号ハ三十七代孝德天皇ニ始_リ

大化ト云

前前太平記卷之二

人皇三十代 敏達天皇七世孫也

モロエキマワコウ

テシヒマワハウジ

天平寶字元年正月左大臣正一位橘諸兄卿薨死ス

天平寶字、
四十六代孝鎌
天皇之年号也

春秋七十四歳

帝孝鎌甚愛悼シ五_ヒ紀餘麻呂石川

豊人等ヲ遣サレ葬事ヲ監護セラレケル此卿ハ敏達天皇

六世孫美奴王子ナリ和歌ヲ好シ國字ニ通ジ嘗テ勅ヲ

奉テ大伴家持ト共ニ萬葉集ヲ撰セラル今世ニ至ルニテ

和歌ノ古風ヲ言者萬葉集ニ依ガルナシ諸兄卿初ハ

葛城王ト申シイマダ從二位ニテオハシケル時 帝聖武御前ニ

橘姓

聖武天皇

賜所也

天平八年

事也

御宇... 橘姓... 聖武天皇... 賜所也... 天平八年... 事也

貞觀元年

山

御宇... 橘姓... 聖武天皇... 賜所也... 天平八年... 事也

永代節用無盡藏ニ云フ

四十五代

聖武天皇

聖武天皇 天平八年 丙子 葛城王 橘ノ姓ヲ賜ヒ
名ヲ諸兄ト改ム

聖武天皇 天平八年 丙子 葛城王 橘ノ姓ヲ賜ヒ
名ヲ諸兄ト改ム
聖武天皇 天平八年 丙子 葛城王 橘ノ姓ヲ賜ヒ
名ヲ諸兄ト改ム

世ニ至ルニテ
兄卿初ハ
帝聖武ノ御前ニ

前太平記十七之卷 二紙ウ

國々ノ武士ヲ被召上其人々ニハ

相摸守橘敏貞ト云人アリ

同 十八之卷 十五紙

右馬允橘賴經ト云人アリ

前太平記卷之八ニ

太宰大貳中務少輔橘公賴 嫡男左京進敏貞
舍弟大膳大夫公彦 ト云人アリ

右馬允橘賴經ト云人アリ
同三十卷ニテ
逆志方太郎橘貞賴 同合身新方次郎橘
ト云人アリ

前前太平記卷十二

仁明天皇御即位ノ條四

天長十年二月天皇 淳和 御位ヲ正良親王ニ讓セ

至西院ニ遷リ居玉リ是嵯峨天皇第二子仁明天

皇御事ナリ御母檀林皇后嘉智子左大臣

橘諸兄公苗裔贈大政大臣清友娘ナリ此時

嵯峨帝スバ前ノ太上皇ト申シ淳和帝スバ後ノ

太上白王ト申シケル先帝 淳和ノ御子恒貞親王ヲ

東宮ニ立ラセ左大臣藤原緒嗣右大臣清原

夏野左右立テ万機政ヲ補佐シ奉ル天皇ノ

御外舅參議橘氏公 檀林皇 后ノ弟 右大將ヲ兼テ

武官ノ事ヲ掌ル 上巳

橘姓
聖武天皇
賜所也
天平八年
事也

橘氏ノ系
橘氏ノ系
橘氏ノ系
橘氏ノ系
橘氏ノ系
橘氏ノ系
橘氏ノ系
橘氏ノ系
橘氏ノ系
橘氏ノ系

天皇之年号也

春秋七十四歳

帝孝錄甚愛悼^{アイタラ}シ玉^{ラシミイタミ}紀餘麻呂石川

豊人等^{トヨヒトヲ}遣^{ツカハ}サレ葬事^{サウジ}ヲ監護^{カンゴ}セラレケル此卿ハ敏達^{ビダツ}天皇

六世^{ソクニ}孫美^ミ漢^ヌ王^コノ子ナリ口欠^{クハク}子^コノ國^{クニ}ニ

同 十八ノ卷

賦^ヒ鄭^{テイ}守^シ蘇^ソ海^{カイ}貞^{テイ}ニ入^イリ

具中ニ

因^ユテ^テ左^サ士^シヲ^ヲ擢^{ヒキ}召^メテ^テ其^{ソノ}人^{ヒト}ヲ^ヲニ

前太平記十ノ卷

世ニ至^キル^ルニ^ニテ
兄^{ケイ}卿^{ケイ}初^{ハジメ}ハ
帝^{テイ}聖^{セイ}武^ブ御^ミ前^{マエ}ニ

四十五代
聖武天皇

伺候^{シゴウ}セラレシニ 帝^{テイ}諸^{シヨ}兄^{ケイ}ヲ御^ミ寵^{チュウ}遇^ウノ餘^ノ南^{ナン}庭^{テイ}ノ橋^{ハシ}實^{ジツ}ヲ

召^メテ^テ御^ミ土^ツ器^キニ添^ソテ^テ賜^{タマ}リ和^ワ歌^カヲ以^モテ祝^{イハ}シ玉^{タマ}フ御^ミ製^{セイ}

橋^{ハシ}實^{ジツ}艾^{アイ}花^カ其^{ソノ}葉^{エフ}艾^{アイ}枝^エ霜^{シヨウ}オケマシテ常^{トコ}盤^{バン}木^キ

是^{コト}ニ因^ユテ即^{ツキ}姓^{セイ}ヲ橋^{ハシ}ニサレケル左^サバ諸^{シヨ}兄^{ケイ}卿^{ケイ}ノ奕^{エキ}葉^{エフ}ハ家^カ紋^{モン}ニ

橋^{ハシ}ヲ用^{モチ}ルトカヤ又^{マタ}井^イ手^テ邑^チニ居^イ玉^{タマ}フ故^ユニ井^イ手^テ左^サ大臣^{テイジン}トモ申^{マウ}

セシ也 以上

是^{コト}高^{タカ}生^{ナマ}之^ノ由^ユ也

前前

橋姓

聖武天皇ヨリ

賜^{タマ}ハ所^{トコロ}也

天平八年丙之
事也

前^{サキ}左^サ史^シ記^キ卷^{クワン}之^ノ二十

散^{サン}位^イ橋^{ハシ}孝^{コウ}忠^{チュウ}

此^{ココ}外^{ガハ}散^{サン}位^イノ事^{コト}アリ
皆^{みな}橋^{ハシ}ノ子^コノ所^{トコロ}ニ在^アリ

日 卷之二十八

按^ア非^ヒ違^ヒ使^シノ廳^{テイ}ニ宣^{ノリ}旨^{ミコト}下^シリケハ即^{ツキ}為^ナル侍^シ清^{キヨ}

橋^{ハシ}宗^{ソウ}輔^ボ官^{クワン}共^ニ二百^{ニヒャク}餘^ノ人^{ヒト}ヲ引^{ヒキ}率^{ソウ}メ康^{キヤウ}和^ワ三^{サン}年^{ネン}二月^{ニグヒ}

右^{ミダリ}等^{トナリ}橋^{ハシ}姓^{セイ}ノ人^{ヒト}也

元^{ゲン}年^{ネン}山^{ヤマ}ノ
橋^{ハシ}姓^{セイ}ノ人^{ヒト}也
橋^{ハシ}姓^{セイ}ノ人^{ヒト}也
橋^{ハシ}姓^{セイ}ノ人^{ヒト}也

人等ヲ遣サレ葬事ヲ監護セラレケル此卿ハ敏達天皇
世系美又王子ナリ口欠子ノ國ニ

十八ノ卷
蘇我氏ノ事

其ノ中ニ
虎士ノ類ヨリ其ノ人ノ

世ニ至ルニテ
兄卿初ハ
帝聖武ノ御前ニ

候セラレシニ 帝諸兄ヲ御寵遇ノ餘南庭ノ橋實ヲ

御土器ニ添テ賜リ和歌ヲ以テ祝シ玉フ御製

橋ハ實サ花サ其葉サ枝ニ霜オケマシテ常盤木

因テ即姓ヲ橋ニサケル左バ諸兄卿ノ奕葉ハ家紋ニ

用ルトカヤ又井手邑ニ居玉フ故ニ井手左大臣トモ申
也 以上

是橋姓之始也

前前太平記卷之七

六七紙 同十卷 橋直幹ト云アリ

木工寮權允橋良基ニ詔シテ宇佐宮ノ宮式ニ
准シテ鳩峯ニ新ニ宮殿ヲ造シメ神魂ヲ遷奉リ
本朝第二ノ宗廟トナシ源氏ノ氏神ト崇ラル

貞觀元年山城國男山石清水勸請之事 行教法師ニ神託アリニ依也

人皇三十代敏達天皇 諱ハ又ナホクラフトタキ

此御宇未_レ有_レ年号

前前太平記卷之二

人皇三十代 敏達天皇七世孫也

大化ト云

天平寶字ハ
四十六代孝錄
天皇之年号也

テシヒヤウハウジ

天平寶字元年正月左大臣正一位橘諸兄卿薨死

春秋七十四歳

帝孝錄甚愛悼_シ玉_ヒ紀_ル餘_ル麻呂石川

豊人等ヲ遣_レサレ葬事ヲ監護セ_ラレケル此卿ハ敏達天皇

六世孫美奴王子ナリ口欠_ル子_ノ國_ノ當_テ勅_ヲ

同 十八ノ卷

叶鄭守蘇海貞

四十六代
聖武天皇

因_テ左_ニ於_テ薨_リ召_ス其_ノ人_ヲニハ

前前太平記十ノ卷

伺候セラレシニ 帝諸兄ヲ御寵遇ノ餘南庭ノ橘實_ヲ

召_レ御土器ニ添_テ賜_リ和歌ヲ以_テ祝_シ玉_フ御製

橘_ハ實_サ花_サ其_ノ葉_サ枝_ニ霜_オケ_マシテ常盤木

是_ニ因_テ即_チ姓_ヲ橘_ニナ_サレケル左_ニ諸_ノ兄_ノ卿_ノ奕_レ葉_ハ家_ノ紋_ニ

橘_ヲ用_ルトカヤ又井手_ノ邑_ニ居_玉フ故_ニ井手_ノ左_ニ大臣_トモ申

セシ也 以上

是橘姓之始也

前前太平記卷之七

六七紙

同十卷 橘

木_ノ工_寮權_允橘_良基_ニ詔_シテ宇_佐宮_造

准_シテ鳩_峯ニ新_ニ宮_殿ヲ造_シメ神_魂

本朝第二ノ宗廟トナシ源_氏ノ氏_神

貞觀元年山城國男山石清水勸請之事 行教法師ニ神

Handwritten notes on the left margin, including characters like 橘姓 and 聖武天皇.

年号也

仁和寺オホロ御室ト

申也

宇多天皇

寛平法皇

申奉也

寛平七年

号也

乱葬道人橋満寺述之

法皇宇多天皇建仁和寺スミタテ後ス称御門跡ト門跡者

御門ミカド皇居之跡ト云事ニシテ仁和寺ニ以為其濫觴也

然ル三向宗本願寺強テ蒙ニ勅許号スル門跡ト其誇ト

可キ惡ニ甚シキ者ニ歟尤准門跡ト名シ共門跡之号ハ不

離レ勿論攝家門跡ト名シモ有アルバソレニ基キテ勅許ア

リタル歟其程ハ知子共何レニモセヨ驕名目ニシテ佛者

不似合也仍テ後人心得ノ為書記シ置者也

三河後風土記ト題セリ書ト同事也

武德安民記卷之廿六

細川兵部太輔藤孝後三幽齋ト号スハ足利義輝の弟也故義晴

將軍の女を二淵伊賀守に賜ふ出生女子則藤孝也然に

之淵は實子出生はり故藤孝を細川右馬允播磨守カ事歟元常が之

養子に出さ細川と之淵とハ一家をまハ悦々家督を譲る故

細川も名乗は故尔實ハ義輝の弟也後尔藤孝京都

勝龍寺乃合戦軍功有て信長より長岡庄を贈る故

長岡藤孝ト云也

三好修理大夫長慶が臣松永彈正久秀ハ元山城國西岡

の百姓に仕立屋をカミシモなる者也然るに素袍の袖を切て上

の物を出し智にカミシモ次第に立身當時和州の領主たり

長慶と計つて永録八年五月十九日彈正清水詣と偽り多

勢を率して俄に義輝の二條乃御所へ押奇カミシモ義輝を弑す

義輝の舍弟一乗院覺經をハ上野中務細川兵部太輔藤

孝兩人密に御供し越前朝倉義景を頼む

夫より跡に三好松永兩人計りて義久を立る此將軍在世四

年也永録十年九月死也

織田信長ハ舊^{モト}尾州ノ斯波^{シバ}武衛之臣也
斯波家ニ云ハ足利尾張守高經の子孫ヲ越前尾張ヲ
領セシ其老臣朝倉ニ云者叛逆シテ斯波ヲ倒シ越前ヲ
押領ス斯波ノ二老臣織田ハ尾張ニ在シガ逆心ノ朝倉ヲ
従^{モト}ムキニあ^{モト}ビテ尾州ヲ討從^{モト}テ吾領國ニせリ依テ
織田ハ舊^{モト}斯波家ノ家人也



或書ニ

細川兵部太輔藤孝入道

玄日法印
幽齋ト云

源君の味方なり丹後國田邊城に楯籠る石田

三成攻之戦争中古今集三島三木乃傳を殘

置よそし勅使城中へ参向あり應對乃中へ鉄炮の

鉦かね子飛来まり

玄日法印

やぐをさしてうの鉄炮のたまきは

今にをわふた也此道

換

何人のいそぐ古今集傳授の事ハモ事いざうけ実信

難き事がら勅使出下向の事ハ深き水趣意

有あ心こころきき事ことと思おもはは壓おさてて証あかしへへくくししをを深こほく

口迹くちせきハハ之これ一ひと筆記ひき記き人ひとからかららししここり

玄旨法うみほり此こゝ詠うた亦またも信うけがが心こころしてしてんん事こと也なり

唯ただ時ときよりよりてて面おもて白しろけけハハ亦またにに記きすすののこ

亂みだ筆づささ人ひと満み壽こと

